

滋賀県野洲市

株式会社 グリーンちゅうず

グリーンちゅうず

新規就農・
担い手、
担い手育成

地域の農業を守ります



取組内容

- 「地域農業の最終的な受け皿」となることを基本理念とし、各種農作業受託や水稻・小麦・大豆・キャベツ・パンパスグラスなどの栽培を行っている。
- 機械の進入が困難な農地や空き地などの保全管理を行っている。
- 地域の未来を担う子供たちに対して、食を支える農業の役割、農業と生活・社会の関わりなどについて理解を深めてもらうための「食農教育」を実施。

取組に至った経緯

- 農業に従事する方々の高齢化問題や後継者問題、また耕作をやめる兼業農家が増え続けるなか、地域農業における「駆け込み寺」として農業生産法人を立ち上げた。



大型機械による収穫作業

取組の成果(受賞等)

- 平成6年に特定農業法人の全国第1号として認定。
- 44集落、505人から260haの農地を預かる。

今後の展望

- 日々の改善活動により無駄を省き生産コストを削減するとともに、収量や付加価値などを向上することで収益性を高め、従業員や従業員を支える家族の生活を豊かにすることを目指す。



地域の子供たちによる田植え体験

京都府久御山町

ロックファーム京都株式会社

新規就農
・担い手、
担い手育成

農業をカッコよく魅力的に



取組内容

- ロックファーム京都株式会社は、アルバイト、技能実習生を含め、約50名の従業員（20～30代中心）で九条ねぎ、ホワイトコーン、黒枝豆等を栽培するほかいちご観光農園を開設する等、多角的な経営に取り組む。
- 京都府内の若手生産者で野菜の共同販売会社を立ち上げ、量販店のニーズに応え周年的な販売を実現。
- 自社オリジナルブランドである「京都舞コーン」（ホワイトコーン）を栽培する等、新しい発想を結集して、農業の可能性を探求。

取組に至った経緯

- 農家に生まれ育ち、いつかは自分も農業をしたいとの思いから、2018年に就農。2019年に「ロックファーム京都株式会社」を設立。
- 九条ねぎを中心に生産を拡大し新たな品目を取り入れながら、販路開拓も積極的に行っている。

取り組む際に生じた課題と対応

- 経営拡大に伴い、農業未経験の雇用が増え、栽培技術の蓄積、適材適所の人材活用が課題となった。
- 多様な人材に対応した働きやすい環境整備や独立就農時の支援体制を充実し、定着化を促進。

今後の展望

- 「カッコいい農業」「ワクワクを創造する」というコンセプトの下、更なる規模拡大、新しい品目や輸出など新しい試みに挑戦。



「京都舞コーン」糖度が高く艶やかな白色が特徴のスイートコーン



ロックファーム京都株式会社の皆さん

大阪府豊中市

半田ファーム じえっとハウス苺園

新規就農・
担い手、
担い手育成

人口40万人都市の生産緑地に
いちご農園



ハウスの真上を通過するジェット機

取組内容

- 人口40万人都市の街中にある生産緑地で、いちごの高設(養液)栽培。
- 新鮮さにこだわり朝摘みした「紅ほっぺ」と「おいCベリー」を販売。
- 農薬の使用量の軽減も図っており、栽培時に発生する規格外やキズもののいちごも、ジャムに委託加工して販売。
- 都市農業の利点を活かし、生産物の5割はハウス前で直売。
- 担い手育成や農業への関心を高めるため、大学生のフィールドワークや小学生のハウス見学の受入れ。

取組に至った経緯

- 59歳で小学校教諭を辞め、家業を継ぎ就農。豊中市の農業委員を務める縁で河南町のいちご農家を訪問したところ、いちごに大きな魅力を感じ栽培を開始。
- また、ハウスが大阪空港に近く、ジェット機が空港に着陸する航路の真下にあることから、「じえっとハウス苺園」と命名。

今後の展望

- 地域農業を盛り上げるため、新規就農者の育成を進めたい。
- 消費者に農業への関心を持ってもらうことを目的に、トマト、きゅうりの鉢をオーナー制で販売し、栽培のアドバイス等を行う予定。
- 多品種のイチゴを栽培し、観光農園の開設を目指す。



大学生のフィールドワークで説明



完熟したいちご(紅ほっぺ)

大阪府富田林市

きらめき農業塾

新規就農
・担い手、
担い手育成



富田林市きらめき農業塾[第3期閉講式・第4期開講式]

作っているのは野菜ですが、
育てているのは人財です。

取組内容

○ 大阪府富田林市のきらめき農業塾は、「富田林市農業を創造する会」(以下「農創会」という。)の担い手育成部会が中心となり、府、市、JA、農業委員会が連携・協力し、発足。若手農業者の育成と地域への定着のためのサポートをしている。

取組に至った経緯

○ 富田林市は古くから農業が盛んな地域であったが、農家の高齢化、後継者不足などの問題が深刻化し、産地の維持も困難となっている一方、新規就農希望者は増えている状況にあることを踏まえ、新規就農者を育成するための機関として「富田林市きらめき農業塾」を設立。

活動状況

○ 令和6年8月、第四期生14名が入塾し、ベテラン農業者の指導の下、様々な野菜を栽培。生産した野菜は、自ら味を確認するとともに、農創会が主催するマルシェに出品し、消費者との対面販売のコツを学んでいる。農創会の運営には20名を超える農家が関わっており、塾生は毎週土曜に開催される基礎研修への参加や希望する農家を訪問し、日々の農作業を体験する農家研修へも参加し、仕事としての農「業」を自ら経験し、就農のイメージを高める機会となっている。



左:ベテラン農業者の東幸一さん
右:代表者 中筋秀樹さん



基礎研修農場で農作業をする塾生

大阪府和泉市

農事組合法人ツユグチ

担い手

大都会で耕作放棄地の解消とともに
環境負荷低減の生産に取り組む



取組内容

- 大阪府和泉市において、地域の課題である耕作放棄地の解消に向けて経営規模を拡大し、約40haの水田で主に水稻(ヒノヒカリ、キヌムスメ、キヌヒカリ等)を作付けするとともに、玉ねぎ(水稻の裏作)、白ねぎ、さつまいも等の露地野菜も生産する。
- 大阪府の認証制度である大阪エコ農産物の認定を取得、環境に配慮した農業を推進。

取組に至った経緯

- 父親が始めた規模拡大を引き継いで、平成23年に農事組合法人を設立し、栽培方法を工夫し病害虫の発生を抑制する米作りを実践。
また、農家の高齢化により耕作されなくなった農地を借受けて耕作放棄地の解消に取り組んできた。

取り組む際に生じた課題と対応

- 従業員・パートも高齢化が進んでおり、人材確保が厳しい状況の中、新たに農地を借り受ける場合は、現在の借地の近隣の条件の良い農地に限定するなど、農地を集約し効率的に作業が出来るよう努めている。

今後の展望

- 近年、消費者の焼き芋人気によりさつまいもの需要が増えているため、水稻栽培に適さない圃場において「べにはるか」への転作を進めている。さつまいもは農薬を散布しなくても栽培でき生産コスト節減及び省力化に繋がるため、今後も拡大する予定。



都市近郊にある圃場



大阪エコ農産物認定の玉ねぎ

兵庫県加西市

前田 航 氏

新規就農・
担い手、
担い手育成



農大実習をきっかけに
県の就農支援策を経て就農

取組内容

- 前田氏は、兵庫県立農業大学校在学中の実習で加西市の谷川果樹園に来たことがきっかけで、卒業後、平成28年に加西市で就農。
- 就農時は10aからスタートし、現在は50aまで経営面積を拡大。紫玉・BKシードレス・藤稔・ピオーネ・マスカットベリーA・シャインマスカットなどを栽培。

取組に至った経緯

- 加西市には丘陵地を活用した大規模なぶどう団地があり、地域外からも新規就農者を積極的に受入れている。前田氏は、農大卒業後に県の就農支援策(親方農家で研修を受ける制度)により谷川果樹園で1年間の研修を受け、周辺の畑を借り受けて就農。
- 親方である谷川氏の指導のもと、地域活動にも積極的に参加し、周辺の農家さんとも良好な関係を構築。

今後の展望

- 就農して5年目でようやく所得が上がり、ぶどう農家としてやっていける目途が立ってきたことから、土づくりや技術向上、新品種の導入などに積極的に取り組んでいく。
- ぶどうの需要が高く、集落でも新規就農者の増加に取り組んでおり、自身としても新規就農者の受け入れ・指導ができる生産者になりたい。

兵庫県香美町

兵庫県立香住高等学校
海洋科学科

新規就農・
担い手、
担い手育成



缶詰×高校生で地域の活性化

取組内容

- 地元で水揚げされる低利用水産物の有効利用として、但馬漁協、民宿等の地域団体と連携してオリジナル缶詰を開発。
- 観光客の閑散期に地元の民宿との連携により自然学校の県内小学生を誘致。
- 自然学校の小学生に缶詰製造を通じた食育を行うことで、水産に興味を持つ小学生の増加に寄与。

取組に至った経緯

- 香住高校では持続可能な水産業を目指す授業の一環として、但馬漁協と地元民宿の3者で連携して、地域で水揚げされる水産物のうち比較的低利用なものを有効活用した土産用としての缶詰を新たに開発。

取組の成果(受賞等)

- お土産かつ災害時の食料となる商品を開発し、地元自治体の防災用備蓄食料として活用。
- 但馬漁協でのお土産総売上額は前年の1.47倍(令和2年)。
- 地元の民宿との連携による自然学校の受入れは、平成29年度以降年平均300人以上を達成。
- 近畿農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回)ビジネス・イノベーション部門に選定。

今後の展望

- 商品開発において地域に頼りにされる存在となり、新商品開発を生徒の探求心育成につなげたい。
- 自然学校で小学生が使用する学習教材のデジタル化を行い、より効果的な自然学校の運営を目指したい。



自然学校受け入れ



新缶詰のPR



自然学校体験プログラム

和歌山県紀の川市

和歌山県農業協同組合
紀の里地域本部 あら川の桃部会

新規就農・
担い手、
担い手育成

「あら川の桃」のブランドを維持
し、後継者問題を解決したい



取組内容

- JAわかやま紀の里地域本部あら川の桃部会が中心となり、トレーニングファームサポーター会を設置し、生産者から研修サポーターを選任。JA営農部がトレーニングファームの事務局として支援。
- 新規就農希望者の中から当部会が1～3名の研修者を受け入れ、研修者1名に対し複数名のサポーターが担当し、桃生産の経営・栽培技術等の研修と地域への溶け込み等を支援。研修はサポーターの園地で実施し、研修期間は1年以上、おおむね1200時間以上としている。
- 部会員に営農継続意向アンケートを行い、新規就農者受入れの意識醸成を図りつつ、継承可能な園地を把握。行政とJAが連携し、サポーターが中心となって、研修修了時には50a程度の園地や倉庫、中古農機の確保支援に取り組む。
- 新規就農者への営農・定着の指導は、サポーター会のメンバーのほかJA営農部、県普及指導員、紀の川市、農業委員会等の関係機関が連携・協力して実施。

取組に至った経緯

- 商標登録(平成6年)やGI(令和5年)を取得した「あら川の桃」のブランドや優良園地の維持を目的に、平成27年にJA紀の里あら川の桃部会が中心となり、生産者から研修サポーターを選任し、トレーニングファームサポーター会を設置。和歌山県、紀の川市、農業委員会、JA等が地域ぐるみで新規就農者の育成・定着を支援。

取組の成果(受賞等)

- 令和5年度果樹農業における担い手及び活躍表彰(担い手の育成・確保の部) 農産局長賞

今後の展望

- 農家が主役となり地域に密着したあら川の桃部会の取組が、他の地域や品種でも実施できれば、産地の活性化や後継者問題の解決に繋がる。研修を通じて就農した若者が独立し、地域の一員として新たなサポーターとなり、新たな若者を就農に導くような存在になってもらえるよう、今後も尽力したい。



研修サポーター(左)と研修生(右)

京都府京丹後市

鶴 龍郎 氏

新規就農・
担い手、
担い手育成

地域に支えられ
地域と共に発展を目指す



取組内容

- 鶴氏は平成26年に京都府京丹後市に移住。平成30年に本格的に就農し、令和3年には知人と2人でシーズファーム株式会社を設立。
- 会社を立ち上げられた当初は、露地野菜を中心に農業に取り組まれていたが、会社設立2年目に方針転換し、農業でありながら工業的な生産で販売が可能なサツマイモ苗等の育苗中心に変更。設立当時ハウス10棟、露地1haだった農地は、令和7年にハウス49棟、露地4haに拡大。

取組に至った経緯

- 東日本大震災の災害ボランティアの経験から、人に奉仕することにやりがいを感じ、フィリピンで国際協力の仕事を視察。
- 現地の従事者に指導してもらい「自分自身に必要なものは経営スキル」だと感じると共に、どこの国であっても必要である食と農業に関心を持った。
- 出身は大阪で、農業を始めようとした時に「京ブランド」と観光農園に関心があり、最初は京都市周辺で農地を探し始めたが適当な農地が見つからず、候補地を求めて徐々に北上。海が開けていて景観が良い京丹後市に行きつき、その土地に魅力を感じて、すぐに移住。



鶴氏とシーズファーム株式会社の方々

今後の展望

- 現在も農業従事者だけでなく他業種コミュニティとの関わりを大事にしており、たくさんの関係者の方々と協力し事業拡大を目指しており、令和6年には貯蔵庫を利用した養鶏を始め、鶏肉販売に取り組んでいるが、最終的には自社での食肉加工や販売、飲食店の経営まで一元管理し、直接お客様の笑顔が見られる商売をしたい。

奈良県生駒市

いちごの縁F(エッフエ)
藤原大輔

新規就農・
担い手

いちごで紡ぐ様々な人との縁づくり



取組内容

- 平成30年に奈良県立なら食と農の魅力創造国際大学校を卒業後、6aの農地を借りてハウスを整備し、奈良県の育成品種「古都華」中心にいちご栽培を開始。
- 現在の経営耕地面積は、いちご26aのほか野菜類20aとなり、規模拡大中。また、いちごは新たな品種「ならあかり」を導入。

取組に至った経緯

- 食べるものを作ることで地元の人や消費者とのつながりなど人付き合いを楽しむことができ、定年に関係なく働き続けることができる農業に魅力を感じ、非農家出身だが、民間企業から農業への転職を決意した。

取り組む際に生じた課題と対応

- 希望する面積の農地を借りることができなかったが、小さな面積から経営実績を積み、地元での人間関係を構築していくにつれ、農地を貸してくれる方が増えた。

今後の展望

- 年間を通じて収益を安定させるため、たまねぎ、さつまいも、じゃがいも等野菜類の栽培面積を増やしていき、収入が安定してきたら、いちごの栽培面積を50a程度まで拡大したい。いずれは、法人化を目指し、今年から始めたいちごの収穫体験のほか、野菜の収穫体験農場も開設したい。



農地を借りてパイプハウスを整備



新たに導入した品種「ならあかり」

奈良県葛城市

寺田農園株式会社

新規就農・
担い手、
担い手育成

農業が好きだから継承していきたい



中央：取締役の濱田正彦氏

右：代表の寺田昌史氏

取組内容

- 収入と雇用を安定させるために、年中収穫でき労務管理しやすい水耕栽培を行っており、エディブルフラワー（食用花）、ハーブ、マイクログリーンなどを栽培。
- 安定した経営にするために競合他社の少ない品目及び販売先を選定し、販路開拓を行っている。

取組に至った経緯

- 約35年前に海外農業研修に参加し、アメリカの農場で現地の労働者をまとめるスーパーバイザーを経験したことで、「人を雇用する農業」、「生産性の高い農業」を日本で実践したく就農した。
- 若い従業員のアイデアを大切にしており、「“農業はこうあるべき”ではなく、若い従業員のアイデアを活かした農業・販売にも取り組んでいきたい」と考えている。



水耕栽培しているエディブルフラワー

取組の成果（受賞等）

- 令和3年度 農業振興功績者表彰 優秀賞

今後の展望

- これからも農園を発展させていくためには、親族内継承には拘らず、経営感覚の優れた者に継承することが重要と考え、令和5年度にこれまで農園を支えてきてくれた従業員1名を取締役に任命。令和8年6月には第三者継承により農園を任せる予定である。
- 新規事業である観光農園（いちご）と農産物直売所を整備し、自社の野菜だけでなく近隣農家が栽培した野菜の販売や地域雇用の創出を目指している。

和歌山県みなべ町

みなべ梅郷クラブ

新規就農・
担い手、
担い手育成

梅農家の若手後継者グループが
歴史ある梅産地を未来につなぐ



取組内容

- 梅の受粉に欠かせないニホンミツバチを守るプロジェクトを令和2年に立ち上げ、地域住民や大学生を巻き込み、巣箱作りや巣箱設置の取組、放棄園や人工林伐採跡地にニホンミツバチの蜜源となる広葉樹の植林に取り組む。
- 高齢化による担い手不足により増加傾向にある耕作放棄地対策に取り組むため、令和元年度にみなべ町の梅農家を対象にアンケートを行い、放棄園の実態等について調査。「みなべ梅郷クラブ」が放棄園の梅の木の伐採を有償で請け負う活動を令和2年度から開始。伐採した放棄園には、地元森林組合と連携し、紀州備長炭の原料となるウバメガシを植樹するなど、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を後世につなぐ取組を展開。
- 主力品種である南高梅は自家不和合性品種で、開花期の気象条件等が結実に大きく影響することから、南高梅に代わる新品種の開発や品種改良に向け、令和4年度に南高梅の評価や新品種に関するアンケートを行い、梅農家から意見やアイデア等を集約。自家和合性品種で南高梅と同等の品質を持ち、樹勢が強く、収量が多い等の特性を持つ新品種、特徴のある新品種の開発を目指し、育成に取り組む。
- 「みなべ梅郷クラブ」と大手飲料メーカーが連携し、南高梅の味わいを再現した新しい炭酸飲料を開発・販売することで、南高梅を全国に発信。

取り組みに至った経緯

- みなべ町の梅農家の若手後継者でつくる「みなべ梅郷クラブ(4Hクラブ)」は、ニホンミツバチが激減している現状や放棄園の増加に危機感を抱き、歴史ある梅産地を守るため、クラブ内にプロジェクトを立ち上げ、ニホンミツバチの保全や放棄園の伐採、広葉樹の植樹等、プロジェクトリーダーを中心に地域の課題解決に取り組む。

取組の成果(受賞等)

- 第60回、第61回全国青年農業者会議のプロジェクト発表(地域活動部門)で農林水産大臣賞(2年連続)

今後の展望

- 先人が築いた伝統を大事にしつつ、最新技術も兼ね備えた経営を目指しながら、400年前から続いている歴史ある梅産地や世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を未来に継承する活動を継続していきたい。



広葉樹を植林する梅郷クラブメンバー